

# 甲斐市立双葉西小学校 自己評価書

平成 31 年 2 月 26 日 (火) 作成

校長 「中村 雅彦」 記述者 職名 (教頭) 「長田 理」

学校教育目標 「ともに学び ともに育つ」

学校経営方針

## ・基本：教師力の向上・信頼によるチーム力の発揮・創意ある協働

- 1 学校教育目標「ともに学び ともに育つ」を常に意識し、めざす「こども像」「学校像」「教師像」の実現に向け、積極的に教育実践に取り組む。
- 2 PDCA サイクルを生かし、より質の高い教育活動を構築する。
- 3 意欲的に研修に励み、専門職としての資質・能力の向上に努める。
- 4 信頼される学校づくりの実現に努める。

作成に当たって

### 教職員評価について

- ・これまで同様、A回答（そう思う）とB回答（ややそう思う）を合わせて肯定的な回答と捉えることとしAとBを合わせた回答率が 90%を上回る項目は「達成できている」と評価する。
- ・肯定的な回答の回答率が 80%を下回る項目は「本校の課題」とする。

### 保護者アンケート・児童アンケートに関して

- ・教職員自己評価と関連がある項目について適宜取り上げる。

## 1 全体評価

○教職員自己評価から

肯定的回答の内、100%が 57 項目中 52 項目、90%以上が 5 項目で、全項目、肯定的な評価であった。学校教育を全体的な視点で見た時、本校職員の職務への高い意識がうかがえる。自らの日々の活動が児童の成長につながっていると、教職員は実感しているのではないかと考える。

コミュニティ・スクールに関する項目においても、100%の回答が得られた。本年度は大きな異動がなく、安定した学校体制のもと、教職員が自信を持って児童の指導や学級学年経営、学校応援団の方々との授業を紡ぐ上での協力体制作り等に取り組んできたことの現れであると捉えられる。また、コミュニティ・スクール地域コーディネーターの勤務が 2 年目を迎え、業務の進捗がより円滑に進むようになってきた。加えて、事務職員もその業務を補助し、職員との協力体制がより確立してきている。コミュニティ・スクールとしての特色も含め、学校運営の基盤がより望ましい方向に進んでいることが大きいと考える。しかし、今後も慢心することなく本校らしい教育実践の遂行に心がけていきたい。

○児童アンケートから

・肯定的な回答の内、100%の項目が 27 項目中 1 項目、90%以上の項目が 14 項目で全体の約 52%である。大部分の児童が学校生活を中心とした自分の生活や活動などに満足している様子がわかる。また、コミュニティ・スクールとしての視点では、地域の方々とは紡ぐ授業に有用感を感じて

いる児童が 95%を上回る等、コミュニティ・スクールとしての成果が定着していることがわかる。  
 反面、読書への取り組みにおいて今年度も課題がみられる。また、「授業でわからないことがあったら先生に聞いていますか」の項目では、14%の子どもが消極的と回答しており、困ったことを相談できないと回答している児童も 11.4%いるなど、全体に比べると数値は低いですが、決してこれらの課題は見過ごすことなく意識を高く持ち、それらの課題の改善に対応していきたい。

○保護者アンケートから

・26 項目中 14 項目が 90%以上の評価で全体の約 54%、80～90%の項目が 6 項目で全体の約 23%に上った。このことから、8 割弱ほどの保護者が、児童が充実した学校生活を送っているという肯定的評価をしていることがわかる。

・昨年より達成率が向上した項目は

Q4 学校は保護者、地域住民からの声に耳を傾けている・・・91.9% (H29+4.9%)

Q6 学校は子どもの間違っただ行動に対して指導している・・・92.9% (H29+4.3%)

Q24 学校は地域人材の活用を行っている・・・・・・・・・・・・91.4% (H29+2.9%)

Q13 お子さんは宿題の他にも自主学習をしている・・・・・・・・75% (H29+20.7%)

Q15 困ったときの相談相手がいるか (先生)・・・・・・72.3% (H28+2.3%)

このことから

\*コミュニティ・スクールとしての特色が年を追うごとに保護者にも浸透してきていることがわかる。

\*家庭での自主学習の習慣が定着してきている。

## 2 項目ごとの評価結果 (達成状況・改善策)

### I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8 項目中全項目 100%達成である。          昨年度から引き続き着実な学校運営が全教職員のチームワークにより推進されていると判断している。</li> <li>・校長のリーダーシップの元、ベテラン及び中堅職員が自分の本務はもちろんのこと、若手の育成に非常に熱心に取り組み、若手もその期待に応えようと努力を惜しまないので、世代間の交流や協業がスムーズに行われている。</li> <li>・各分掌間の連携もよくとれていて、一体感のある学校経営が実践されている。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクール発足以来、多くの学年で様々な「地域と紡ぐ授業」が展開されてきた。本校の子どもたちには、「学習というものは学校で先生や友達でやるものだけ」、という観念はあまりない様を感じる。数多くの応援団の方々が学校に来てくれたり、子どもたち自身が学校の外に出て行き、地域や応援団や保護者の方々と共に学習したりすることが当たり前という感覚になってきている。まさに「社会に開かれた教育課程」が実践されていて、本校は「地域とともにある学校」であると捉えている。今後は、平成32年度の学習指導要領全面実施に向け、「主体的・対話的で深い学びの授業」の構築、外国語科や、特別の教科道徳の推進、プログラミング教育への対応等、新たな課題への取り組みが始まっており、コミュニティ・スクールとしての本校は、新たな段階に入ろうとしていると考える。</li> </ul>

### II 学校運営について (保護者用アンケート等も含めて)

達成状況	<p><b>教職員評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12 項目のうち、全項目が 100%の達成率である。しかし、厳しく見ていくと、B (そう思う) の割合が以下のもので高いことが課題といえる。</li> <li>*危機管理・・・51.9% 校務分掌・・・34.6% 職員会議・・・36% 特別支援教育体制・・・</li> </ul>
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>40.7%である。意識を高く持ち、今後も継続的に課題解決に向けて取り組みたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校長のリーダーシップのもと、教職員は学校運営に関する視点（項目内容）を十分に意識し、校務分掌を中心とした職務に誠実に丁寧に取り組んでいることがわかる。また、自分の分掌以外の職務への参加意識が高い職員が多く、若手や中堅職員の指導を積極的に行い、人材育成にも寄与する意識が高い職員が多い職場である。</li> </ul> <p><b>保護者アンケート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Q12のコミュニティ・スクール運営に関連して、保護者アンケートQ24〔学校は地域人材の活用を図っているか〕という項目において、91.4%の肯定的評価が示されている。教職員も保護者もコミュニティ・スクール運営が順調に推進されているという実感を持っていることがわかる。</li> <li>・ Q10の児童の健康管理に関して、保護者アンケートQ25〔学校は外遊び奨励など健康教育に力を入れている〕という項目において、82.5%の肯定的評価が示されている。教職員も保護者も児童の健全育成に手応えを感じていると捉えられる。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Q2危機管理マニュアルの理解という点において、昨年度よりは、A（とてもそう思う）は48.1%（H29+12.1%）と改善はしてきているが、学校経営上の優先順位は相変わらず低い。児童や教職員などの「安心・安全」は何にもまして最優先の課題である。職員や児童の意識をさらにあげるべく、不断の努力を継続しなければならない。</li> </ul>
<p><b>Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）</b></p>	
達成状況	<p><b>教職員評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全10項目100%の達成率であった。しかし、厳しく見ていくと、意欲的に学ぶ授業作り（75%）個に配慮した授業作り（75%）等7項目は、Aが80%を切っている状況である。中でも、外国語科・外国語活動は45%と低く、大きな課題であると教職員は認識している。</li> </ul> <p><b>保護者アンケート・児童アンケート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 充実した学習指導が行われていることは、児童アンケートのQ1〔学校は楽しいですか〕のAB評価94.9%、及び保護者アンケートのQ1〔お子さんにとって学校は楽しいところだと思う〕のAB評価93.8%とも90%以上の達成率であることが何よりも物語っていると判断している。</li> <li>・ 児童アンケートのQ5〔学校の授業は楽しいですか〕のAB評価は91.5%、Q6〔先生はよく授業を教えてくださいますか〕99.9%、Q7〔国語の授業はわかりますか〕96.3%、Q8〔算数の授業はわかりますか〕95.9%、Q9〔授業でわからないことは先生に聞いていますか〕86.0%、保護者アンケートQ8〔お子さんは授業の内容がわかっていると思う〕86.6%、Q11〔学校は熱心に授業に取り組んでいる〕94.8%の項目評価からも、本校の学習指導がおおむね成果をあげていることがわかる。</li> <li>・ しかし、各項目とも、人数は少ないものの、楽しいと感じていなかったり内容がわからないと思っている児童がいる。この事実を決して見過ごしてはならない。一人一人の児童の実態に寄り添い、粘り強く指導を継続していかなければならない。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習内容の理解や定着に課題を持つ児童に対して、一人一人の実態に即して、指導の工夫を常に図り、個別指導を継続していくことが必要である。</li> <li>・ 学級全体で授業に取り組む際にも、やまなしスタンダードの視点を取り入れた授業を着実に実践していかなければならない。</li> <li>・ 基礎基本を習得する段階においても、アクティブラーニングをベースにした授業構築を実践していけるよう個人でも学校組織全体としても研修を積み段階的に授業力のアップを</li> </ul>

	<p>図っていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語教育に関しては、平成32年度からの全面実施に向け、多くの課題に全職員で取り組んでいく必要がある。</li> </ul>
<b>IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）</b>	
達成状況	<p><b>教職員評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8項目中、7項目（児童理解のためのコミュニケーション・規範意識の醸成・生徒指導上の課題の共有及び協働指導体制の確立・児童の健全育成のための関係者及び関係諸機関との連携・児童理解のために記録をとる・きめ細やかな観察をするなどの適切な対応をとっている）は100%の達成率であった。</li> <li>・残りの1項目（キャリア教育の実践）においても達成率90%以上であった。</li> <li>・生徒指導に関しては、特に、学校の中の共同体制が生徒指導主任を中心に教職員の共通理解のもと、連携が図られていることが一番大きいことと考えている。</li> </ul> <p><b>保護者アンケート・児童アンケート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートQ6 [学校は子どもの間違った行動を指導している] 92.9%、児童アンケートのQ2 [仲のよい友達の存在] 95.2%、Q3 [相談相手（友達）の存在] 81%、Q4 [困っている人を進んで助ける] 91.5%等の結果を見ても、生徒指導が浸透していると判断できる。</li> <li>・同じく児童アンケート項目の中で、挨拶・規律・委員会活動への取り組み・清掃活動への取り組みなど規範意識の有無を問う内容項目においても90%以上の達成率であることから、本校児童は、規範意識が高い児童が大多数であることがわかる。</li> <li>・自己評価Q3 キャリア教育及びQ7 児童理解への対応（観察・記録）において、A評価がそれぞれ52.2%・76.9%、B評価がそれぞれ43.5%・23.1%とB評価率がやや高い。まだまだ、有効なキャリア教育の実践が不足していること、適切な児童理解の手段（記録を残す等）が不足していることを示している。</li> <li>・児童アンケートの項目で、高い達成率を示している項目でも、数は少ないが、「仲のよい友達がいらない」と答えている児童が3人いるし、「相談できる友達がいらない」と52人いる。また、23人の子は進んで人助けはしないと答え、47人は学校のことは家の人にはあまり話さないと答えている。その他の項目でも、否定的な答えをする児童が少なからずいることを見逃してはならない。（将来の夢・決まりや約束を守る等も含む）</li> <li>・就寝時間に関しては、大部分の児童が適切な時間に就寝しているが、一部の児童において、就寝時間が遅い児童や布団に入ってもゲームなどをしていたり本を読んでいたりといる児童が高学年にいる。指導していきたい。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孤立感がある児童や規範意識が薄い児童等への対応については、日頃から、学級学年経営の理念の基礎基盤としての「インクルーシブ教育」の観点から、日々の実践を常に振り返り、改善を積み重ねる不断の努力が教職員に求められる。</li> <li>・児童からの些細なシグナルを見逃さないきめ細かな児童理解が必要となる。日記のやりとりやピアサポート的な手法による学級活動を行うことで一人一人の児童の看取りが可能になると考える。</li> </ul>
<b>V 地域との連携について</b>	
達成状況	<p><b>教職員評価・保護者アンケート・児童アンケート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10項目中、9項目が100%の達成率。残り1項目も95%以上の達成率である。関連する保護者アンケートQ18 [地域の人への挨拶の奨励] 86.3%、Q18 [地域行事への参加] 83.7%、Q24 [学校は地域人材を活用している] 91.4%、並びに、児童ア</li> </ul>

	<p>ンケートQ16 [地域の行事に参加しているか] 89.3%、Q18 [地域の人に挨拶をしている] 94.1%、 [地域と紡ぐ授業は役立っている] 95.5%という以上のような結果から、教職員も児童も保護者も、コミュニティ・スクールとして「地域とともにある学校」という理念が確実に継続的に実現できているものと捉えていると判断できる。</p>
<b>VI 学校の特徴に関して</b>	
達成状況	<p><b>教職員評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9項目中6項目で、100%の達成率であった。</li> <li>・残り3項目も全て95%以上の達成率である。</li> </ul> <p><b>保護者アンケート・児童アンケート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信の項目（保護者アンケートQ3 各種お便り、HP Q4 保護者や地域の要望の受け入れ風土 Q5 参観日や開放日の設定）において、AB評価がそれぞれ、95.9・91.9・98.5%と高評価であった。また、児童アンケートQ14（学校のことを家で話すか）は82.6%である。学校は積極的に情報を開示し、保護者はその情報の開示を享受できている状況といえる。児童も学校でのことを家で話す子が大半で学校と子ども・保護者が互いに情報を共有し合える環境が整っているといえる。</li> <li>・家庭学習の項目のうち、宿題・家庭自主学習の定着率は75.0%と、昨年度より20.7%も上がり、自主学習が定着の方向に向かっていることが窺える。 また、各学年の目標家庭学習時間を82.6%の児童はやっていると答え、宿題も88.6%の児童がやっていると答えている。保護者も96.7%は、忘れずにやっていると答えている。</li> <li>・読書活動においては、教職員は、AB評価で96.3%の職員が指導に努めていると答えているが、児童アンケートQ19及び保護者アンケートの [1日どのくらい読書しているか] を見ても読書時間はとても少ない。学校での取り組みにおいては、前述したとおり、様々な取り組みを行い読書の奨励に努めているが、家庭読書が充実してきているとはいえない現状といえる。</li> <li>・読書の取り組みに関しては、学校は司書を中心に学校内での取り組みや家庭での読書の奨励の取り組みを継続しているが、不十分という結果が、アンケートからもでた。まずは、学校内の取り組みとして、業間時間で読書に今まで以上に取り組める様な環境作りを行い、その成果として家庭での読書へとつなげてはどうかという意見もあった。家庭への啓蒙も引き続き粘り強く行っていきたい。</li> </ul>
<b>3 まとめ</b>	
<p><b>&lt;成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は、日頃より非常に高い課題意識と強い連帯感を持ち、教育活動を推進しており、学校教育目標に基づいた適切な学校運営がなされてきていると判断している。</li> <li>・地域と保護者と学校が非常に良好な関係を引き続き築いてきており、コミュニティ・スクールとして「地域と紡ぐ授業」が展開できていて、双葉西小スタイルが安定的に継続していると判断している。</li> <li>・児童は、全体的に親和性に富み、6年生を中心に明るく元気に素直に健やかな成長をしてきている。</li> <li>・発達に特性を持つ児童の居場所作りへの取り組みや児童一人一人の自己有用感の育成というインクルーシブ教育の理念がしっかりと根付いてきている。</li> </ul>	

### 〈課 題〉

- 全校的・全体的に見ると、児童も教職員も保護者も肯定的な評価が際立つ結果になっているが、どの分野のどの項目にも数値は低いが必ずネガティブな回答を通して、シグナルを送る児童や保護者がいることを決して忘れてはならない。その一人一人の特に児童(むろん保護者もだが)がどんな「想い」をかかえているのか、どんな心身の状態にあるのか、我々はそれらに思いをはせ、常に向かい合わなければいけない。そのことから結果として逃げてはならない。その「想い」を持つ児童が仮にたった一人であったとしても、である。教育の営みとは、結局そこに帰結するのではないか、と考える。
- 「やまなしスタンダード」の授業スタイル(アクティブラーニングを核とした)は、全員が100%身につけていかなければならない。お互いに授業を見合い見せ合う等する中で切磋琢磨し授業力の向上に努めたい。そのために校内研究の枠にとらわれず、自由にのびのびとお互い学級の中に入りやすい雰囲気作りや仕組み作りに取り組むことが大切であると考えている。
- 外国語活動や外国語科の授業への取り組みについては、喫緊の課題であり、今後もしっかりと取り組んでいかなければならない。
- 特別の教科道徳の実践力向上のため、教職員の研修を推進していかなければならない。
- 保護者アンケートに関して、毎年の課題だが「学校の様子がわからない・子どもの友達がわからない・相談できる友達や先生がいるかわからない」など「わからない」という回答が今年も多い。各種たよりやHP等を通して、これまで以上に学校での諸活動の様子などの情報を発信していく必要がある。
- 諸課題の中で、本校の特色であるコミュニティ・スクールとしての強みを発揮し、課題解決につながられることを洗い出し、その解決方策を検討していく必要があると考える。